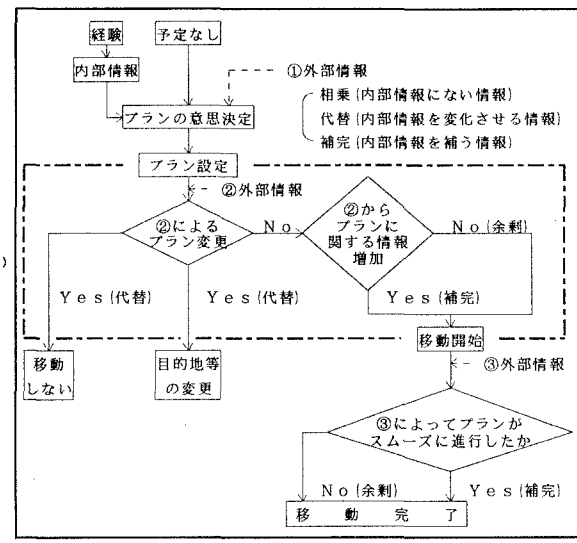
(IV－29)　情報が私事目的交通行動に与える影響について

宇都宮大学工学部　学生会員　○岩崎　正晃
宇都宮大学工学部　フェロー　　古池　弘隆
宇都宮大学工学部　正会員　　森本　章倫

1．はじめに

近年，地域連携が重要視されている中で，都市間を結ぶ交通網や情報網などのインフラ整備が盛んに行われている。今後，それによって地域間交通の増加が想定される一方で，余剰な情報については情報によって交通を代替するなどの手段を考えていく必要があると思われる。物流と情報システムの関係について，呉ら(1992)[1]が検討しており，国際交通安全学会 633プロジェクトチーム(1982,1983,1984)[2]が情報と通勤交通の代替・相乗・補完関係を明らかにしている。しかし，非定常交通についてはあまり考えられていない。そこで本研究では，非定常交通である私事目的交通と情報の関連性を人間の交通行動から分析して把握することを目的とする。



図－1　交通行動の中の情報と交通の概念図

2．交通行動の中の情報と交通の関係

交通と情報の間には，情報の増加が交通流動を減少させる代替，増加させる相乗，そして情報が交通流動の質を向上させる補完という関係[2]があると考えられているが，実際に人の交通行動の中で情報と交通がどのような影響を与えるのかということについては不明確な点が多い。そこで，人の交通行動について図－1のように考える。この中で，個人の経験を内部情報とし，外から新たに入ってくる情報を外部情報として情報入手段階別に①，②，③の３つに区分した。

また，本研究では，図－1をもとにアンケートを作成して交通と情報の関係について尋ねる方法を取った。アンケートの詳細は表－1の通りであり、アンケートの対象者は，宇都宮大学の学生を対象にした。また，対象交通目的については，美術館には様々な形態の地域交流に導く余地があると上原ら[3]が述べていることから，美術館を選択した。

表－1　アンケートの詳細

実施日時	平成８年１２月
対象者	宇都宮大学学生　　有効回答数１３１
対象交通目的	美術館（博物館，民俗資料館を含む）
質問項目	年齢，性別
Q1	自分の意志で行った回数
Q2	行った経験の中で主目的であったかどうかの割合
Q3	現在と今後の美術館に関する情報入手手段
Q4	美術館を選択する時最低限必要な情報
Q5	Q4で選択した以外で，あると便利な情報
Q6	出かけなくても見ることが可能なら行く機会はどう変化するか
Q7	目的地変更する場合の理由

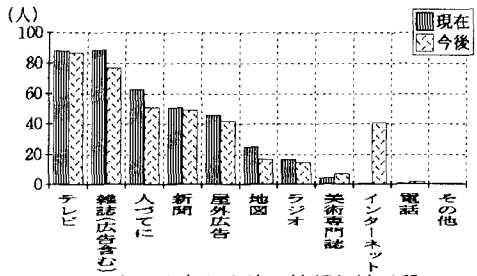
3．美術館における交通と情報の関連性の分析

内部情報である属性についてであるが，自分の意志での訪問回数は全くないと１～３回という答えが８割程度を占めていることから，一般的にこの年齢層での美術館への訪問は少ないものと考えられる。

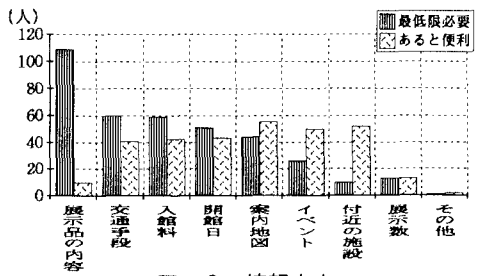
次に，美術館に関する情報を手に入れる場合に，現在被験者が使用可能な手段と，今後使うと予想される情報伝達手段の比較を含めて考えると，テレビと雑誌が現在・今後ともに常に使いやすいものと考えられている。また，インターネットだけが増えており，電子

情報への期待があることが分かる。そして，全体的に視覚的メディアの方が聴覚的メディアより比較的よく使われていると考えられる（図－２）。

次に，美術館を選択するにあたって，展示品の内容についての情報を必要と答えた人が，あれば便利な情報と答えた人を上回っていた。また，付近の施設についての情報を必要と答えた人は少ないが，あれば便利な情報と答えた人が多いことから，一般的に展示品の内容は必要な情報，付近の施設はあると便利な情報と考えられる（図－３）。そして，展示数という情報については比較的余剰な情報であると考えられる。

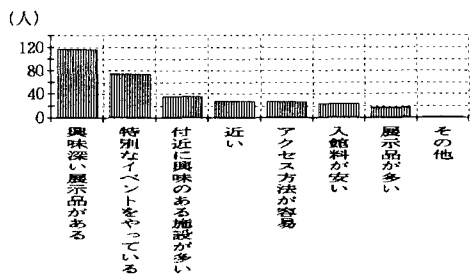


図－２　現在と今後の情報伝達手段



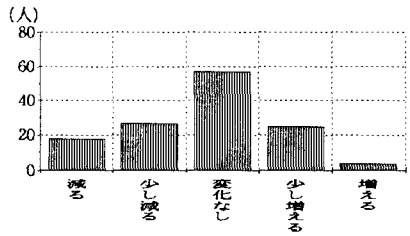
図－３　情報内容

次に，訪問予定の美術館を変更するときの理由としては，展示品の内容やイベントが約半数程度を占めており，変更する理由として大きいものはこの二つであると考えられる（図－４）。



図－４　変更する理由

美術館の展示品が家庭で閲覧できる場合，半分弱の人が行く機会に変化なしと答えたが，減ると答えた人が増えると答えた人に対して若干多かった。このことから，代替の可能性が多少あることが分かった（図－５）。さらに，ここで減ると答えた人に着目してみると，主に行ったことのない人が行く機会が減ると答えていることから，美術館に行くという交通行動は経験の少ない人のほうが代替可能性があると考えられる（表－２）。



図－５　情報による行く機会の変化

表－２　行く機会と来訪回数

	減る	変化なし	増える	計
全くない	18	19	7	44
１～３回	21	25	11	57
４回以上	6	13	11	30

５．まとめ

本研究では，私事交通に着目することで情報と交通の関連性を明らかにすることを目的として研究を行った。以下に得られた知見を示す。

①情報伝達手段については，現在・今後共にテレビや雑誌を主な手段として用いると考えられる。

②美術館への交通の情報による代替可能性は，個人の属性によって変化することがわかった。

③必要情報と，便利情報が必ずしも一致しないことから，目的を決定させる情報と目的実行に役立てる情報とでは情報内容が違う。また，目的を変更させる理由については，主に展示品の内容などの個人の嗜好が大きな要因となる情報が選択されている。

今後の課題としては，被験者の拡大と，美術館以外の交通行動に関しても考えていく必要がある。

【参考文献】

1) 呉東建・苦瀬博仁・中川義英：情報システムによる物流の代替・相乗・補完効果の分析　第27回日本都市計画学会学術研究論文集 pp355～360，1992

2) 国際交通安全学会 633プロジェクトチーム：交通と通信の代替・補完関係　IATSS review, Vol. 8, No3, pp176～181, 1982, Vol. 9, No3, pp173～182, 1983, Vol. 10, No3,　pp193～201, 1984

3) 上原健司・山形耕一・金利昭：地域交流における美術館の役割に関する研究　土木学会第50回年次学術講演会pp478～479